

総合知の活用の先行事例 ● 食と健康の達人[®] ①

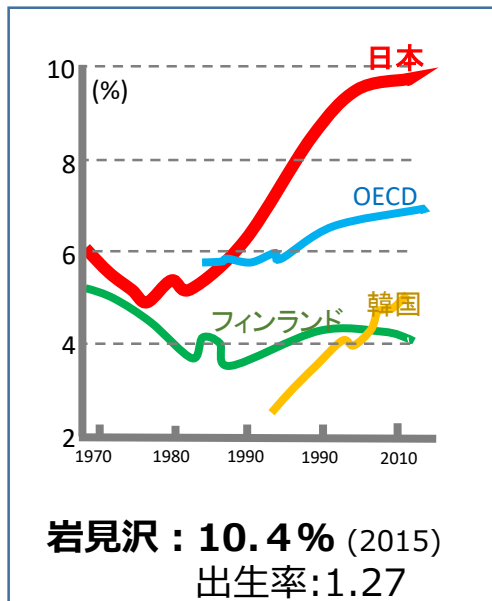
JST・文部科学省のセンター・オブ・イノベーションプログラム（COI）北海道大学拠点では、母子を中心に、家族が健康で安心して暮らせる社会をめざして、子どもとともに、みんなが、健康で元気に成長できる地域モデルを構築し、「ひと」と「まち」が『食と健康の達人』として育つ社会の実現に取り組んでいる。母子健康調査と腸内環境の科学的理解により母子の健康を知り、食・生活の改善を促進するとともに、健康経営都市プラットフォームとデータ・ヘルスケアプラットフォームの社会実装を自治体および企業と連携して進めている。

ビジョン形成の背景と自治体（岩見沢市）との連携

市の“総合戦略”
として推進

母子が元気になるれば、地域・家族が笑顔で安心して暮らせる社会になる

日本は、
低出生体重児が10人に1人

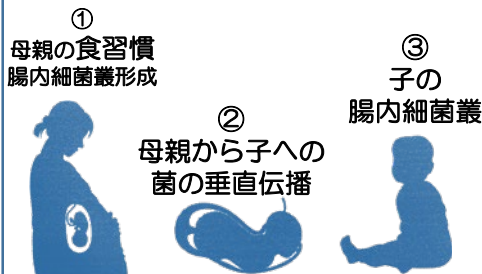


(資料) Health at a Glance 2013, OECD.Stat (2014.7.15 OECD Health Statistics)

DOHaD
母の腸内環境が影響

胎児期（母体）～乳幼児期の環境は、
将来の健康や特定の病気への
かかりやすさに影響する

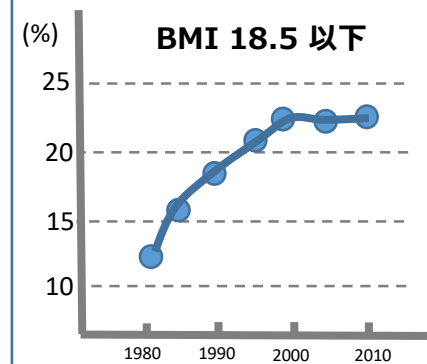
DOHaDを誘導する環境要因として
腸内細菌が注目されている



DOHaD : Developmental Origin of Health and Disease

社会環境
食・生活の改善

原因の一つが
“やせすぎ”の増加
20才代の20%以上



資料：厚生労働省 国民栄養調査（H21）

総合知の活用の先行事例 ● 食と健康の達人® ②

市民とともに、IssueをDesignしていく

“社会課題”と“自分課題”を共有・共感にする

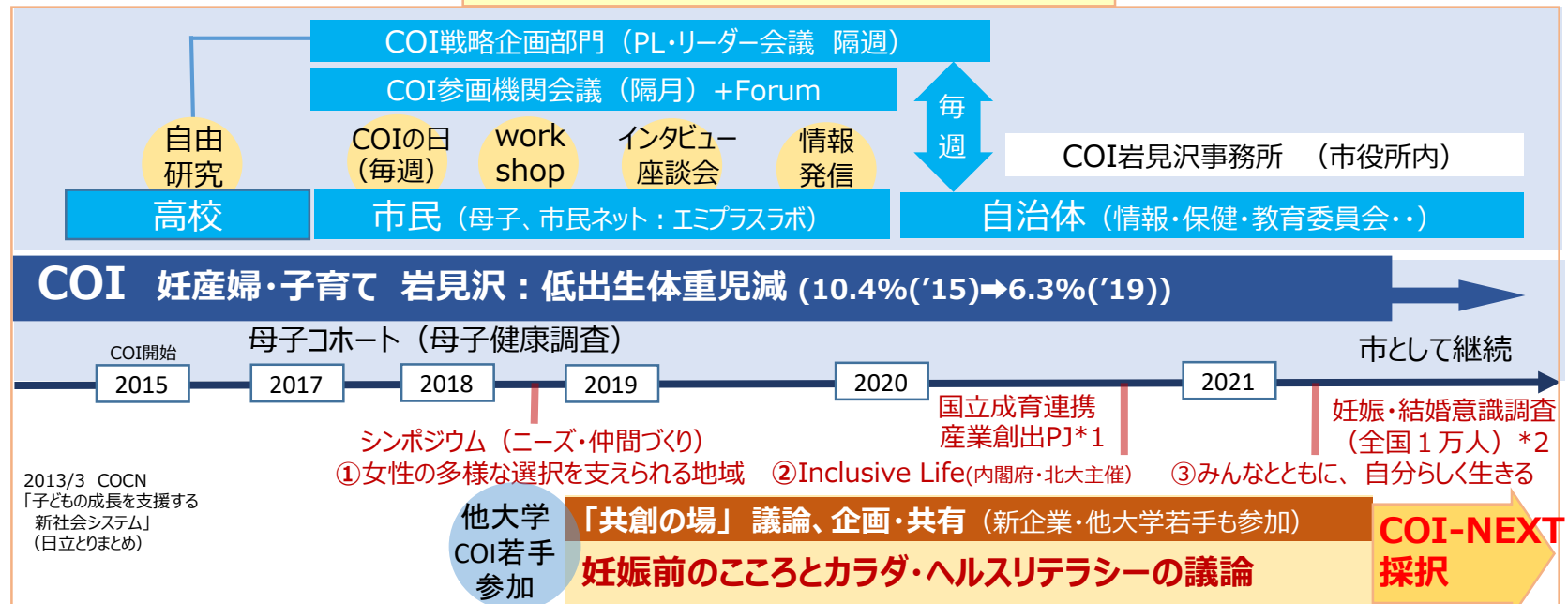
ライフデザイン：自分課題

- 気づいたら、高齢出産の年齢になっている
- 妊孕力（にんようりょく・妊娠に必要な能力）、低出生体重児など、ヘルスリテラシーが足りない
- 望んだ時に、妊娠できていない
- 自分の子どもも、みんなの子どもも家族も大切

少子化・地域維持：社会課題

- 北海道は少子化（出生率1.2）
- 女性の活躍が進まない（ジェンダー格差）
- 地域にありがちな固定的な男女・家族意識
- 安心・安全に産み・育てられるまちが必要（COIでは、妊産婦・出産を中心に推進）

- ①日常的に市民、自治体の課題を議論
- ②調査等で定期的に課題を把握（意識・健康）



*1:プレコンセプションケア産業創出PJ：(株)SUNDREDとの連携

*2:現代日本における子どもをもつことに関する世論調査：日本医療政策機構と北大で調査、分析